

「JENESYS2024」日中教育関係者 座談会・交流夕食会 (中国教育関係者代表団フォローアップ) の記録

1. プログラム概要

【目的】本事業は、過去の「JENESYS」事業で訪日した中国教育関係者代表団参加者と、2024年10月27日(日)～11月2日(土)に中国日本友好協会の招待により訪中した日本青年教育関係者訪中団参加者が座談会と交流夕食会を行い、日中の教育分野について意見交換し、相互理解をより一層深めることを目的に実施しました。

【参加者】中国教育関係者代表団参加者 28名

(日本側：日本青年教育関係者訪中団参加者 42名 計70名)

【訪問地】北京市

【日程】

■ 2024年10月29日(火)

概要

【座談会】

テーマ別グループディスカッション

交流テーマ1：ICTの利活用

交流テーマ2：教員の働き方(環境、待遇、研修、褒章等)

交流テーマ3：生徒の学業負担及びその軽減策

交流テーマ4：指導方法(一斉授業 vs. 個別指導、探究型の指導方法、
双方向型の教育、アクティブ・ラーニング等)

交流テーマ5：生徒・学生のメンタルヘルス

交流テーマ6：教科担任制 vs 全科担任制

交流テーマ7：STEAM教育

グループ代表4人によるディスカッション感想発表

講評

【交流夕食会】

2. 記録写真



グループディスカッション



グループディスカッション



参加者によるディスカッション感想発表



訪中団団長による講評

3. 報道記事（抜粋）

なし

4. 参加者の感想（抜粋）

- ◆1. 中日の教育と教授における情報技術使用の類似点と相違点を理解しました。
- 2. 日本の教育従事者について理解を深めました。

- ◆日本の学生の学業負担改善策について新たな理解を得るとともに、日本の教師のローテーション勤務制度についても新たに知ることができました。

- ◆中日双方の子供たちが教育で直面している問題や悩みは一致しており、これからも子供たちの健全な成長のために一緒に取り組んでいきたいと思えます。

- ◆日本の学校の STEAM 教育は、地方や地域に関連したトピックが多く、資源開発の観点から学ぶ価値がありました。

- ◆学生に対する教育理念や課題は一致していて、これまでの先入観が変わりました。より多くのテーマ性のある交流を行えば、理解が更に深まると思えます。

- ◆中日双方の教育分野において多くの類似点がありました。直面する問題には類似点があり、中日双方の教師は、学生のプレッシャーを軽減し、総合的に成長できるように、教育と指導方法の改善に最善を尽くしていることが分かりました。

実施団体：（公財）日中友好会館